町民のひろば

千葉県知事賞（中学生の税に関する作文コンクール）

私たちのための税金

横芝中学校二年　伊野　真理子さん

六月のある日のこと、父が「はい、ボーナス」といって、母に袋を手渡した。母は袋をあけ、明細を見ていたが、やがて「わー、税金が一割以上も引かれている」と不満そうに言っていた。

私は税金を納めることって、そんなにいやなことなのかと思い、母にたずねてみました。母は「ただとられてしまうような気がするから」なんて言っていた。

それまで私は、私の家では収入がどのくらいで、いくら税金を納めるかなど、考えたこともなかったし、無関心でした。

それからしばらくして、学校から「租税教室」というパンフレットをいただきました。そのとき、ふとあの母のことばを思いだしました。それが、私が税金について考えるきっかけでした。

ところで、私たち国民が豊かで安定した生活をおくるために、国が広い範囲にわたっていろいろな仕事をしているそうです。国だけでなく、県や市町村でも同じだそうです。たとえば、私たちの健康や生活を守る「社会保障」、住宅や道路などの整備に使われる「公共事業」、教育や科学の振興のための「文教科学振興」なのだそうですが、私たちは、直接的・間接的にそのおかげで、こうして社会的学校生活をおくることができるのだなと思いました。

私たちの学校は、三年前に成田空港防音対策事業に関連して新しくりっぱになりました。また、体育館も柔剣道場も新しく完成しました。これもすべて国や町の財政でまかなわれているそうです。さらに、私たちが毎日使っている教科書や、教室の電気・水道などと考えてみると、むだに使ってはいけないと思いました。

また、その財源は国民の税金によるものだということを考えると「税金は、ただとられてしまうようなもの」ではなく、私たち自身のくらしを守るために、国民が当然納めなければならないものだと思います。

サラリーマンの私の父が納める税金は「所得税」で、商店や会社などが納める「法人税」、これらを「直接税」というそうです。そして、収入によって、公平に負担するようになっていることも知りました。よく新聞などで、申告をごまかして脱税をする人や会社があることを聞きますが、そんなことはいけないと思います。国民としての義務は当然守らなければならないと思います。なお、お酒・たばこや、宝石・ゴルフ用具などの高級品にも「間接税」という税金がかかっていることにもおどろきました。

私の父の場合もそうですが、毎日汗を流して働いて得た収入から納める税金です。やはり平等に、そして不正のないように納められなければならないと思います。そして、その大切な税金が、ほんとうに国民のために有意義に正しく使われることを願っています。

私たちの幸せを守るために、もっと住みよい国をつくるためにも。

横芝俳壇

横芝句会　二月例会

錦鯉沈む葉に寄り冬の水　土屋　栗水

満々と堰押す冬の水ゆるく　石川　奇水

毛糸編むすぐに丸まる背を正し　成田　慄子

沈むもの底に這はせて冬の水　宇井　芝童

冬の水浮ぶ泡沫なかりけり　原　ひさし

歩き初む子のふんばりや春を待つ　藤代　ゆう

冬の水藻とほてい草枯れふさぎ　向後　雅子

冬の水浮ぶ埃りの下流れ　鈴木　南知

嘘つきし悔あり冬の水を飲む　三枝　句城

水色の毛糸を編んで春を待つ　安井ゆづる

朽ち木の葉沈めて澄める冬の水　木下石果子

寒の水紙漉く手もと馴れてゐる　住母家千夫

何を投げてもふかき音冬の水　石毛　石汀

春を待つ婚姻届にぎりしめ　越川　渡舟

冬の水流るゝ音のさえにけり　加藤　精一

中空に風の道あり梅ふふむ　秋場　万治

盛上る土の息吹や春を待つ　大川　彦一

酔って来し夫に汲みやる冬の水　佐久間久子

冬の水大根洗ひし藁浮べ　佐久間実枝子

老ひし身の待って何ある春を待つ　池田　和代

次回

日時　四月六日（月）

兼題　春陰　蛾蝋

二月号の横芝俳壇中、宇井芝童作品に誤りがありました。次のとおり訂正してお詫びいたします。

水もて芹供×ふ→水もて芹洗○ふ